



横尾中だより

校訓「自立」 〈学校スローガン No Challenge, No Chance〉

R5. 5. 26

第11号

発行者
長崎市立横尾中学校
校長 小浦 末浩

公園リニューアル報告会



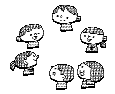
現中学1年生も小学6年生の時に、公園リニューアルに関わり、小学生としての意見を出したと聞いております。現中学2年生も昨年度の1学期に2回、公園リニューアルのワークショップに参加し、中学生としてのアイデアを出しました。そこで5月23日(火)の6校時、市役所の担当の方々がおいでになり、昨年度の大人の方々のワークショップを受けての最終案について報告を受けました。また、最後にはワークショップ形式で、最終案についても更に意見を求められました。



個人的には、2つのアイデアに感心しました。報告会では、長崎大学工学部の先生が9つの公園に役割を持たせ、連携をもたせるようにしたと話されていました。そのために、ピクトグラムの掲示板を設置し、ここは自然を味わってほしい、この公園はトイレが設置されています、などその公園に設置されている物や役割を明示するようにしたいとのことでした。これはなかなか画期的なことで、これからの他の地区の公園リニューアルにも役立つアイデアだと感心しました。もう一つは、猿田公園に川の機能を持たせるというアイデアでした。横尾川はコンクリートで整備されており、水生生物が生息するには適していないように感じております。我が家の近くには蛍が飛び交う場所があり、夏の夜には家族で蛍を見に行くことがあります。そういう場所が学校の近くにあるといいなと思いましたが、環境教育も将来的にできることを期待しています。ただ、川遊びができるとのことでしたので、安全面にも十分に配慮したものにしてほしいと思います。

来年以降、設計の作業に入り、数年後には完成するとのことでした。出来上がりが楽しみです。生徒の意見も取り入れていただき、感謝しております。

留学生との交流会



思い起こせば、横尾中に赴任が決まった令和2年3月末に、長崎外国語大学にご挨拶に伺い、中学生と留学生の交流会がもてるといいですね、と話してから3年の月日が経ちました。新型コロナウイルス感染症の影響で、中学校の活動に制限が大きく加えられ、また大学では留学生が日本の国内に入れなくなったという理由で、この交流会がなかなか開催できないでございました。やっとのことで開催することができ、私としては1つの目標が達成できたと喜んでおります。これを毎年続けることができるように、外大の先生とも今回の反省をもとに、次年度は更に効果的な学習となるように話を進めていきたいと考えております。

5月24日(水)の午後の交流会に向けては、1年生が台紙づくり、2年生が英語でのメッセージ書きを担当してくれ、最後にメッセージカードをプレゼントしました。留学生もたいへん喜んでくれました。交流会は体育大会でも披露した「横尾中ソーラン」から始まり、「さいころトークン」、班別の交流会(トランプゲーム、UNO、折り紙、長縄跳び、だるまさんが転んだ、等々)を行いました。班別交流では各班で事前に話し合ったことを班別に行い、留学生とも楽しそうに交流してございました。



反省点としては、留学生がアジアの方が多く、英語より日本語が得意で、英語での交流を期待していたのですが、日本語での交流になってしまっていた班が多くあったことです。外大の方でも英語での会話を、と募集の時に示していたそうですが、本番ではそうっておらず、恐縮されておられました。中学生も安易に日本語が通じたので、それでよしとなったと、感想に書かれていました。